

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200198
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホーム いしまる
所在地	福岡県福岡市西区石丸2丁目4番6号
自己評価作成日	平成26年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成27年2月18日	評価結果確定日	平成27年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている通り「その人のいいところ探し・できること探し・したいこと探し」を念頭に置き入居者様の事を常に考えている。
 できない事はできる様に手助けし、できる事は一緒に行い日々の生活に役割を見つけていく中で次に、したいことを探してもらい充実した毎日を過ごして頂けるよう心掛けており、入居者主体の生活をつくり上げることに力を入れている。
 また、入居者主体の視点から当たり前に拘束(抑制)は一切行わず施設内は施錠をせずいつでも自由に出入りできる。
 私たちと同じように、出たい時に出れる環境をつくっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームいしまるは、環状道路より少し入った住宅街に立地しており、周りには、公園やスーパーマーケット、美容院などがあるため、利用者が容易に外出でき、在宅と変わらない生活ができています。開設者やホームの管理者などは、グループホームの役割や認知症について精通しており、理念や研修を通してその思いや知識を職員に伝え、利用者が安心して暮らせるグループホームとなるよう努力している。ホームの玄関には季節感のある飾りや、利用者が靴を脱ぎ履きする際に便利なスツールがあり、またリビングの天井は高く、自然の光が取り入れられる造りとなっている。また、中庭があるので、バーベキューや節分の豆まきなどを行っており、季節毎の楽しみがある。ソファには、職員が手作りするクッションが置かれ、家庭的な雰囲気があり、穏やかに時間が流れている。今後も更なる利用者の安定した暮らしの支援が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いいところ探し・できること探し・したいこと探し」を常に念頭に置き、利用者に寄り添うケアを実践している	平成27年8月の開設時に管理者と全職員で理念を考え、玄関に掲示している。利用者ができることを探して職員と一緒にいたり、地域での行事やその他取り組みにも参加したりするなど、理念の実践に努めている。	管理者は、現在の理念に加え地域密着型としての取り組みや思いを表す理念を検討しているとのことで、地域密着型サービスの意義を踏まえたよりよい理念と実践に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回覧してもらっている。また、地域のイベントに利用者と一緒に参加し交流を図っている。会議等の際も公民館を利用させてもらい、そこで地域の情報収集も行っている。	自治会に入会し、地域の行事や清掃などに利用者と一緒に参加している。また、近くの公民館を借りて職員会議などを行うことで、地域の方に職員の顔を知ってもらい、交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでの経験と実績を生かし、地域の方向けの認知症への理解を深めてもらうための講演会等も企画している。また、介護相談の窓口も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況の他、施設内の事故報告も行っており、そこで対策などを細かく説明を行っている。また、意見要望も伺いがすぐに対応するよう心掛けている。	参加者は、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表、利用者、ホーム代表などとなっている。ホームの現状を報告し、事故や検討課題などに対していただいた意見や助言を参考に、ホームの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターなどとの連携を取りケアサービスの取り組みを伝え、意見を頂き協力関係を築くように取り組んでいる。区役所、市役所に出向いた際にも情報を得るようにしている。	地域包括支援センターとは、運営推進会議の他にも相談したり、情報交換を行ったりして協力、連携体制が取れている。市役所や区役所へ出向いた際にも担当者と情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束になるのか勉強会を定期的に関開き、未経験職員や経験のある職員にも正しく理解できるように取り組んでいる。	玄関に施錠やセンサーも無く、誰でも自由に出入りができる。徘徊により、外に出ていく利用者がいた場合は、職員が後から付いて行き、安全確保を行っている。また、身体拘束の弊害などを職員研修にて管理者が伝えており、ケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し全職員がその意味について正しく理解できるように努めている。また、契約時にもしっかりと説明している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や会議の中で適宜伝えるようにしている。また、全員が学ぶ機会が持てるよう定期的に学べる環境をつくっている。	開設当初、権利擁護に関する研修を実施している。職員が入れ替わっているため、再度研修を行う予定である。また、権利擁護に関する資料は職員各々が所持しているが、ホームにも置く予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は全ての事項を細かく説明し理解してもらっている。また、最後に必ず疑問点等を聞くようにし納得のいく契約になるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントなどには家族にも参加してもらい、直接話す機会を設けて運営に反映できる様に努めている	家族の面会や行事参加が多く、その際に意見を聞く機会を作っている。家族から運営状況などの問い合わせがあった場合、その都度答えている。また、家族代表が運営推進会議に出席し、意見交換を行っている。その際出た意見について職員会議などで話し合い、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、職員の意見聞くようにしている。また、普段言えないことなどは業務日報を活用し、様々な意見要望、疑問を吸い上げ答えている。	定期的な職員会議の他、個別に面談するなど、職員の声を吸い上げる取り組みを行っている。また、日報や主任からも情報を収集し、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が提案してきたことについて実践できるようにしている。また、担当制にすることでやりがいや向上心を持って且つ楽しく働ける職場環境を作っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	多くの人に介護に携わってもらいたい気持ちから、性別や年齢を理由に採用対象から排除せず、各々に合った勤務体制で働く事が出来るように努めている。また、面接には現場の職員も入るようにしている一緒に働く仲間を直接面接する機会を作っている。	採用にあたっては、年齢や性別の制限はなく、年齢層の幅が広い職員が働いている。働く中で職員の特技や趣味などを活かせる活動、業務がある。また、スキルアップにおいては、講習料立替など資格取得支援体制も整っており、段階的に資格取得できるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会等を通じて「人権とはなにか・尊厳とはなにか」を学び、積極的に人権教育に取り組んでいる。また、外部研修にも参加できる機会を作っている。	法人全体での合同研修の機会があり、職員は参加している。講師ができる職員もいるため、折に触れ学ぶことができている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談にて職員の不安を把握し、各々に合った指導・トレーニングを行うよう努めている。また、定期的な勉強会で学べる環境も作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設との合同イベントや勉強会を企画し実施している。また、区別に開催されているネットワークにも参加予定しており質の向上に繋げられるよう努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	また、入居が決定した際は、以前の施設等に現場の職員と事前に面会に行き顔馴染みの関係を築いている。そこで知り得た情報等は共有し本人が安心して入居できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも連絡を取る機会を持ち、家族の不安や要望を聞くようにしている。それを改善していくことで、家族とのより良い関係が築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを取ることで、「どの様に生活したいか・どんな生活を送ってほしいか」本人と家族双方が納得できる支援を考え対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている通り、日々の生活の中で双方が協力し合い「できること」を行っている。また、職員が見守りの元、利用者が利用者の世話をしてくれる場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族へ手紙を渡し日々の様子を伝え、契約時には面会の必要性も伝え生活に必要なものはなるべく家族へ購入して頂くことで面会する機会を増やす事で精神面のケアも心がけて行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人などの面会や電話などが出来るよう家族と協力して取り組んでおり、馴染みの場所の写真を部屋の壁に飾ったり、時にはお連れしたりしている。	近隣の散歩や以前通っていたスーパーへ買い物に行くなど、入居前の生活を絶たないようにしている。また、家族からの電話や手紙が多く、友人などの面会もあり、関係の継続の支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に引きこもってしまうことがないよう一人ひとりの役割やしたい事を見つけ取り組んでいる。又、全体で取り組める行事など考え他者とのふれあいの時間を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた際は、入居時の様子やサマリーなどの情報を提供し、退去後も連絡を取ったりしながら本人が安心して暮らしていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを知ることができる時間を作っている。その中において、思いや訴え、表情などを見て本人主体で考え希望や意向の把握に努めている。	利用者や家族との会話から思いを把握している。また、日ごろの行動や表情からも把握するよう努めている。	思いや意向を職員会議にて検討し、ケアに繋げているが、アセスメントにそれを記していないものがある。利用者の思いや意向を確実に把握し、ケアに反映できるよう、アセスメントを充実させることを期待する。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から情報や生活歴を聞き取ったり以前の施設からの情報をもらいその把握に努めている。また、入居後も家族や本人との会話の中で聞き取り補足などにも努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活歴などを聴取したうえで一日の流れとしての日課表を作成している。利用者のその日の体調に合わせて日課表は実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活課題をケアプランに沿って立て状態、要望や意向に応じて計画書を作成するよう努めている。	ユニット別にミーティングを行い、計画作成者が計画を立てている。計画の目標に対し、ケアの現状や利用者の状態など月に1回から3ヶ月に1回モニタリングしている。	モニタリングの記録が確認できなかったので、ミーティングやモニタリングの内容を記録し、ケアにより反映されるよう期待する。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個別ケースファイルに記入し、スタッフ間の情報共有として連絡ノートを活用し共有し意見交換などを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人からしたい事などの要望があったり家族からしてほしい事などの要望があれば、どのように対応するか、どうしたら実現できるかなど職員間で話し合い試行錯誤し対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などへの参加や近所のスーパーなどを利用し地域との交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在提携病院からの定期的な往診や専門医に連れていくなどを行い担当医との連携や担当医同士の連携などで利用者の状態に合わせた治療が出来るような体制をとっている。	提携病院や利用者のかかりつけ医など、利用者の希望に応じた診療、治療ができています。夜間や緊急時にも医療連携が取れており、即座に対応できています。また、訪問歯科診療や他科受診にも随時対応している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定をし異常な場合、又は体調不良の訴え、排便困難時、転倒などがあれば看護師へすぐ連絡を取り指示を仰いでいる。また、日頃から気になる事があれば適宜相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の様子や病院との情報交換のため、病院を訪問したりお見舞いへ行ったりして入居時の様子、退院後の受け入れ可能な状態など連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を見て担当医、家族と話し合い同意を得て看取りケアを行っている。また、看取りケアの中で本人の状態は随時、担当医や家族と連絡を取り伝えている。	看取りへの対応は事業所としての方針を定めている。利用者の状態に応じ、その都度利用者や家族と意向などを確認しながら、医師を交えて話し合いを行い、重度化や終末期に対応している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に会議や研修を通じて対応方法を学び、緊急時の対応などマニュアルを作成し全職員が周知し対応できる体制をとっている。また主治医とは常に連絡が取れる体制にある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間を想定した避難訓練を定期的に行い全職員が迅速に対応できる体制をとっている。また、地域の避難場所としての利用も呼び掛けている。	日中の火災の避難訓練は、消防署を交え実施している。職員は避難場所など把握しており、スタッフルームには、ボタン一つで消防署や職員、その他関連機関に通報できるシステムを取り入れている。	来月に夜間を想定した火災時の避難訓練を全員参加（夜勤者除く）にて実施予定である。水害や地震災害における訓練、職員の対応、備蓄品の常備など、課題に対して早急に整備されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通じて人権について学び、利用者それぞれの性格や特徴などを把握した上で人格を尊重し自尊心を傷つけない声掛けや対応をしている。	朝礼にて人格の尊重やプライバシーの確保について管理者が伝えている。常に、利用者の自己決定を尊重すること、職員の都合でケアしないことなどを意識し、実践している。トイレ誘導時の声かけなどにも配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送るなかで、入居者様一人ひとりの「できること、したいこと」を見つけ、以前と変わらない生活を送れるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースに合わせた生活ではなく、本人の身体面・精神面の状態に合わせた生活、一人ひとりが望んでいる生活ペースに合わせた暮らしを送っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容サービスがあっっている。また、その日の服と一緒に選び身だしなみには心掛けている。また、外出時は髪型や服装などのお洒落ができるよう個別に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・片付けを利用者とともに 行い、本人の役割を奪わないよう支援 している。また、食事形態やアレルギー のある方などに対しても食事が楽 しめる対応を取っている。	食事の準備や後片付けなど、利用者ができ ることは行ってもらい、利用者と職員が一 緒に食事を摂っている。行事の際は利用者 の好みを取り入れたり、旬のものを出した りして食事を楽しめるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事を利用し、水分 制限がある方に関しては、病院と相談し個 別対応をしている。毎日のバイタル・食事 量・水分は、個人のバイタルチェック表に て管理・把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を 徹底しており、口腔内の最終チェッ クを行い清潔保持に努めている。また、 必要に応じ歯科往診を依頼し、定期的 に口腔内ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の尿意・便意に合わせる事はもち ろん、排泄チェック表にて確認をして いる。また定期的な声掛け、排泄パ ターンに合わせることでトイレでの排 泄が行えるようにしている。	定期的、随時のトイレ誘導にて、昼間は利 用者全員がおむつを使用することなく過 ぎされている。排泄のタイミングを把握する ためのチェック表も活用し、常におむつを 外す取り組みをしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	自然排便を促す為に、一人ひとりに応 じた対応をしたり、毎日の体操・水分 補給にも取り組んでいる。また、医師 との情報共有を徹底している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をして いる	本人の体調に合わせた入浴・羞恥心に 配慮した見守りでの対応を実施し、楽 しい入浴の時間を過ごしていただける ようにしている。	1日の生活の流れとして、入浴時間や曜日 の設定はあるが、利用者が希望すれば、希 望に応じた入浴を提供している。入浴を拒 否する利用者には個々に対応している。ま たゆず湯や菖蒲湯など楽しめる工夫もして いる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日課表を作成することで、一人ひとり の健康状態を把握し、必要な睡眠がと れるよう努めている。また、生活リズ ムが確立できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により、安全に服薬できるよう管理し、体調変化があればすぐに医師・薬剤師に報告している。また、職員によるダブルチェックを徹底し、誤薬がないようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を送るなかで、一人ひとりに役割を持っていただいている。希望があれば、一緒に散歩や買い物に行き、定期的に外出行事も行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から散歩に出るようにしている。また、買い物等は利用者と一緒に行くようにしている。希望する場所に連れて行けない場合は、家族に協力を得ながら、外出できるよう支援している。	季節を感じられるよう、近所への散歩を積極的に行っている。また、スーパーに買い物に行ったり、ドライブにてコスモスを見に行ったりと外出の機会を作る工夫を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、自分の財布を持っていただき、自己管理できるよう支援し、買い物の希望があれば一緒に買いに行き支払ってもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話ができるようにしている。また、入居後家族と疎遠にならないように定期的な電話や手紙も依頼している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者で作成した作品や外出時の写真を壁に掲示し楽しみを感じている。また、テレビ・音楽は音の混濁を避けるために一方しか流さないようにしている。	玄関や共用スペースなどは、掃除が行き届き、匂いや不快感がなく清潔である。リビングは天井が高く、大きな窓から自然の光を取り入れており、利用者は心地よく過ごされている。壁には大きな温度計があり、快適な室温で生活できるよう工夫がされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にはソファがあり、テレビ視聴や利用者同士で会話をしたりと、自分の好きなことをして過ごせる環境がある。また、中庭を通じてユニット同士の交流も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物を購入するのではなく、できるだけ馴染みの家具・仏具を置いていただき以前の生活と変わらない環境で居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	利用者一人ひとりの個性に合わせた居室になっており、好みのものや、以前から使い慣れたものが配置されている。希望により、居室の外に花壇を作り、利用者が楽しめる環境になるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の「できること・したいこと」を一緒に探し、楽しみ・役割を持ってもらうようにしている。時には、見守りの元包丁やハサミなどを使うこともある。		